



くらしを支える森林づくり いざ、間伐

10月～11月は、間伐推進強化期間です。

夏も終わり、秋になると、各地で間伐作業が本格化します。

林野庁ではこの時期を間伐推進強化期間に設定し、
関係機関と連携しながら間伐の普及啓発活動を展開しています。

今号では、間伐について改めて知っていただくとともに、
期間中に各地で行われる様々な取組について紹介します。



くらしを支える森林づくり いざ、間伐

「間伐はなぜ必要？」



スギやヒノキなど、人の手で苗木を植えて育てた人工林では、基本的にはその後伐採して、木材として利用することを目指しています。

この植えた木を伐採する作業は大きく「主伐」と「間伐」に分けられます。「主伐」は、その後新たに苗木を植えるなど次の世代の森林の造成（更新）

と言います）を伴う伐採を言い、「間伐」は更新を伴わず、育成段階に樹木の一部を間引きし、残った木の成長を促すための伐採を言います。

左の写真を見比べてください。間伐後の森林は明るくなり、下草や低木が進入しています。また、植栽木の幹も丈夫になり、根も発達します。これにより、いわゆる森林の多面的機能がより発揮できるようになります。

一方、我が国では、主伐可能と想定

される、植栽してから45年以上経過した人工林の割合が5割を超えて、本格的な利用期を迎えています。

すると間伐はもう不要かと言えば、

そうではありません。依然として5割近くが生育途上の森林ですし、また、主伐後に引き続き人工林を育成していくには経済的に厳しいと考えられる森林もあります。そこでは、間伐を繰り返しつつ、自然に林内に発生する広葉樹等の生育を促すための主伐（更新伐）と言います）を実施しながら、少しずつ針葉樹と広葉樹の入り交じった森林（針広混交林）と言います）に誘導することも必要です。

このように我が国では依然として間伐が必要な状況にあります。

「間伐を進めていくためには」



間伐を実施するにあたっては、国や都道府県等から補助金が出ていますが、森林所有者の方々の負担部分もあり、この部分をどうしていくかが大きな課題となっています。

一つは林道や作業道等の路網を整備し、機械化を進めるなど、間伐に掛かる費用を削減することが考えられます。

もう一つは、間伐した木（間伐材）と言います）を建築材等としてより有効に活用し、収入を得ることが考えられます。

それでも、様々な条件等から、森林所有者の方々が間伐を実施することが困難な場合は、市町村などが関わって支援していくことも必要でしょう。

これらによって、森林所有者の方々の負担を減らしたり、あるいは、間伐によって収入を得られたりする状況にしていくことが、重要になっています。

また、重要なのが、多くの方々に間伐に関心を持っていただくことです。このことが森林所有者の方々が改めて森林に目を向けるきっかけにもなりますし、また、間伐材を使った製品を購入するなどの行動が、間伐を後押しすることにもなります。

ぜひこの機会に、森林や木材に目を向けていただければと思います。



間伐未実施林



間伐したあとの森林



間伐や間伐材等の木材利用を推進するイベント



ここでは、間伐推進強化期間に、都道府県各地において実施している間伐や間伐材利用に
関係するイベントを紹介します。

なお、紙面の都合上、紹介しきれないイベントが多数あります。これらは、林野庁
のホームページに掲載しておりますので、ぜひ、こちらもチェックしてみてください。

参考URL http://www.rinya.maff.go.jp/j/kanbatu/suisin/con_3.html



間伐箇所見学



木工教室



栃木県の実組

「元気な森づくりの日記念イベント」

栃木県では、県民の皆様に森づくりを身近に感じて
もらい、森づくり活動に参加・協力してもらえるよう、
平成 20 年度に「10 月 16 日」を『元気な森づくりの日』
に制定し、翌年度から、この日を中心に『元気な森づ
くりの日記念イベント』を行っています。

当イベントは、平成 28 年度までの 8 年間で県内各
地において計 30 回開催され、延べ 1,022 名の方が参
加しました。イベントでは、森林の役割等の解説をは
じめ、間伐を実施した森林や伐採作業、製材工場の見学、
更には間伐などの森づくり体験、間伐材を使った工作
など、気軽に参加できる様々な活動を通して、森づく
りへの理解を深めてもらっています。

参加者からは、「森林は手入れをしないといけないこ
とが分かった」「子供と一緒に森林について学べてよ
かった」など好評を得ています。(栃木県 森林整備課)

えひめ山の日の集い



企業の森林づくり活動での間伐作業



愛媛県の実組

「えひめ山の日の集い」の開催

愛媛県では、森林の意義を再認識し、森林と共生す
る文化を創造するため、平成 16 年度に 11 月 11 日を
「えひめ山の日」に制定するとともに、平成 17 年度に
「森林環境税」を創設し、県民総ぐるみで森林環境の保
全を進めています。

「えひめ山の日の集い」は、これらの考えを普及啓発す
る中核的な取組であり、多くの県民に、間伐をはじめ
森林を守り・育てることの大切さを伝えるため、毎年、工
夫を凝らしながら、効果的な広報活動に努めています。

今年度も、11月11日(土)にエミフルMASASI(県
内最大級モール)において、「企業の森林づくり CO₂ 吸
収証書」、「緑の募金感謝状」の伝達や大人から子供まで
が楽しめるイベント等を用意し、約2,000人に対する
PRを行いました。これからも森林・林業の応援団を増
やしていきたいと考えています。(愛媛県 森林整備課)



写真2：カートカン



写真1：間伐材マーク

間伐材マーク
手軽にできる森林保全

皆様はこちらの「間伐材マーク」(写真1)をご存知ですか。「間伐材マーク」は、間伐材を使用している製品に付けられるマークで、土木資材や木製の家具・おもちゃといった木製品から、カレンダーやコピー用紙といった紙製品など様々な商品に使用されています。実はこの「林野—R—N—Y—A—」にも間伐材を利用した紙が使用され、



間伐材マークが付いています。

多くの方々によって間伐を推進する動きが広まり、間伐材は有効に利用することが可能な木材資源であるという認識が高まりました。その中で「間伐材マーク」は、消費者に対して間伐材を使用している製品であることをアピールし、併せて間伐・間伐材利用の重要性もPRしています。

ところで実際に間伐材マーク製品を見たことはあるでしょうか。身近な製品例を挙げますとコンビニエンスストアで提供されているホットコーヒーカップや紙製飲料容器である「カートカン」に使われています(写真2)。このほかにも間伐材マークは割り箸や飲食容器、コピー用紙といった身近な生活用品に使用されていますので、身の回りの生活用品を間伐材マーク製品に変えるだけで、間伐材利用に繋がります。手軽に森林保全に貢献することが出来ます。ぜひ生活の中で「間伐材マーク」を探し、製品を購入してみてください。間伐材マークについて興味のある方は、間伐材マーク事務局のホームページをご覧ください。

ホームページ

<http://www.zenmori.org/kanbatsu/mark/>

(間伐材マーク事務局)



間伐豆知識

列状間伐

間伐の方法としては、木の形質や隣接木との間隔を見ながら、伐採する木を選定(選木)し、点状に伐採する定性間伐が一般的に行われてきました。

定性間伐は、利点もありますが、伐採木の選定に時間がかかり、伐採や集材の際にも、高度な技術と手間を要することもあります。一方、新たな方法として、列状間伐が各地で導入されています。



列状間伐後の森林

列状間伐は、高性能林業機械を使用するなどして、植栽列や斜面方向等に沿って線上に伐採する間伐です。選木の手間が省け、機械を使って線上に伐採することができるため、伐採・集材が容易です。また、伐採した木が他の木にひっかかる「かかり木」が減少して、安全性も確保されます。その結果、作業効率が向上し、間伐材の生産コストが低減するなどさまざまなメリットがあります。

実際に列状間伐を実施した森林において、その後の発育に影響がないことも分かっており、林野庁においても、推進している間伐方法の1つです。



写真1：
間伐・間伐材利用
コンクール表彰式



写真2：女子美術大学生が描いたキャラクター

間伐ネットの取組



2015年、間伐・間伐材利用推進ネットワーク（略称：間伐ネット）は、間伐・間伐材利用の推進を通じて豊かな森林づくりに貢献するため、関係団体有志によって設立されました。歴史ある「間伐・間伐材利用コンクール」を主催者として支え、「Forest Good」というブランドのもと、ホームページ、Twitter、メールマガジン、YouTubeを通して、森や間伐に関する様々な情報を発信しています（写真1）。

間伐ネットの活動の特長はそのネットワークの幅広さにあります。セミナーや交流会の開催はもちろんのこ

と、森づくり関係者だけに止まらず、女性や若者たちといった林業とは縁遠かった人々たちを巻き込み、ソフトに間伐の情報を伝えていきます。

その代表例が女子美術大学との連携です。昨年、間伐を応援するキャラクターを作ろうと始まったプロジェクトから、「フォレストファミリー」というキャラクターが誕生（写真2）。そのキャラクターを活用した「ゴッドと踊ろうかんぱつ体操」も学生の手によって生み出され、話題になりました（写真3）。

そして今年、間伐ネットと女子美術大学との協働に注目した企業から「フォレストファミリー」を活用した間伐材グッズ制作の提案がありました。



写真4：間伐材グッズ

間伐ネット事務局であるエコロジーオンラインが中心となり「女子美術大生が考えた森のキャラクターで間伐材をつかった商品をつくりたい！」という企画を実施し、具体的なグッズの制作に踏み出しました（写真4）。

また、充実してきた間伐ネットを活用して、間伐・間伐材利用コンクールに参加いただいた企業・団体による支援も始まっています。間伐を通して生まれた商品がしっかりと社会に流通し、地域の森に利益が還元されていく。その利益が森づくりに活用されて森がどんどん元気になる。間伐ネットの活動を通してそんな理想に一歩でも近づけたら素晴らしいと思います。

ホームページ

<https://www.eco-online.org/forest-good/>

（間伐ネット事務局）

NPO法人エコロジーオンライン



写真3：かんぱつ体操